

資料 2 第 138 回火山噴火予知連絡会について

平成 29 年 6 月 20 日、第 138 回火山噴火予知連絡会が開催された。同連絡会では、全国の火山活動の評価について検討を行い、委員及び関係機関からの報告をもとにとりまとめた。その結果を気象庁が以下のとおり発表した。

第 138 回火山噴火予知連絡会による全国の火山活動の評価

本日、第 138 回火山噴火予知連絡会において、前回（第 137 回、平成 29 年 2 月 14 日）以降の全国の火山活動について以下のとおり評価を行いました。参考として、気象庁が発表している噴火警報・予報（噴火警戒レベル）についても併せてお知らせします。

全国の主な火山活動評価

桜島

南岳山頂火口では、3 月 25 日に昨年（2016 年）6 月 3 日以来の噴火が発生し、火砕流が南側へ約 1,100m 流下しました。昭和火口では、4 月 26 日に昨年 7 月 26 日以来の噴火が発生しました。その後の噴火活動は活発な状態で経過しました。始良カルデラ地下深部へのマグマ供給が継続しており、今後も同様の噴火活動が継続する可能性があります。

【参考】火口周辺警報（噴火警戒レベル 3、入山規制）発表中

昭和火口及び南岳山頂火口から概ね 2 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。

口永良部島

火山性地震は少ない状態で経過しましたが、2 月には月回数で 195 回とやや多い状態となりました。火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、2016 年 5 月以降、1 日あたり概ね 100～200 トンで経過していましたが、4 月以降は 1 日あたり概ね 200～500 トンと、やや多い状態が続いています。噴煙は、最高で火口縁上 800m まで上がるなど、2014 年 8 月 3 日の噴火前よりは多い状態が続いています。2015 年 5 月 29 日と同程度の噴火が発生する可能性は低下したものの、引き続き新岳火口から概ね 2 km 以内への大きな噴石の飛散、あるいは火砕流の流下を伴う噴火が発生する可能性があります。

【参考】火口周辺警報（噴火警戒レベル 3、入山規制）発表中

新岳火口から概ね 2 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。向江浜地区から新岳の南西にかけて、火口から海岸までの範囲では火砕流に警戒してください。

西之島

4 月 20 日に噴火の再開が確認されて以降、島の中央部やや南に位置する火砕丘からの大きな噴石の飛散と、北山腹からの溶岩の流出が続いています。噴火活動に伴い、島の面積は、2016 年 9 月 15 日の 2.68km² から、5 月 2 日時点で 2.75km² に拡大していることが確認されました。今回の噴火は、2013～2015 年の噴火活動と同様に、島の中央部やや南に位置する火砕丘とその周辺で発生しており、噴火様式や噴出率もほぼ同様と考えられます。今後も噴火活動が続く可能性があります。

【参考】火口周辺警報（入山危険）発表中

火口から概ね 1.5km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

浅間山

火山性地震は概ねやや多い状態で経過しています。2016 年 12 月頃から浅間山の西側での膨張を示すと考えられるわずかな地殻変動を観測しています。火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、2016 年 11 月頃から増加し、2017 年 1 月 18 日に 3,600 トンになるなど多い状態が続いています。また、2016 年 12 月以降、高感度の監視カメラで確認できる程度の弱い火映を時々観測しています。今後も小規模な噴火が発生する可能性があります。

【参考】火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）発表中

山頂火口から概ね 2 km の範囲では弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

御嶽山

2014 年 9 月 27 日に噴火が発生した剣ヶ峰山頂の南西側の火口列からの噴煙活動や山頂直下付近の地震活動は、その後もゆっくりと低下が続いており、現在の火山活動には静穏化の傾向がみられることから、噴火が発生する可能性は低くなっています。

【参考】火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）発表中

火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺）

硫黄山周辺では、2015 年 12 月頃に出現した熱異常域が次第に拡大し、噴気の量が増加しています。2017 年 4 月以降、湧水の化学成分の変化や、火山ガス（二酸化硫黄）の放出がみられ、高温の火山ガスの地下からの上昇が認められます。4 月 25 日から硫黄山南西観測点の傾斜計で、硫黄山方向が隆起する傾斜変動が繰り返しみられ、6 月 20 日現在も継続しています。SAR 及び水準測量でも硫黄山のごく浅いところに起因する地盤の変動が観測されました。5 月 8 日に実施した現地調査により、硫黄山火口西側で火山灰の堆積が確認されました。噴気活動の活発化は過去にみられていた領域に限定されていますが、硫黄山火口のごく浅いところで繰り返しわずかな膨張がみられており、火口周辺に火山灰を降らせる噴火が発生する可能性があります。今後の活動の推移に注意する必要があります。また、硫黄山周辺では硫化水素にも注意してください。

【参考】火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）発表中

えびの高原の硫黄山から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。

諏訪之瀬島

御岳火口では、噴火が時々発生し、集落で降灰が確認されるなど、活発な噴火活動が続いています。今後も小規模な噴火が発生する可能性があります。

【参考】火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）発表中

火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

草津白根山

2014 年 5 月以降、火山活動の活発化を示していた北側噴気地帯の硫化水素ガス成分は、活発化以前の状態に戻りつつあります。また、高温の火山ガスに由来する湯釜湖水の成分も 2017 年に入って低下傾向に転じ、その傾向が続いています。また、火山性地震は少ない状態が続く、地殻変動観測では収縮傾向がみられています。これらのことから、小規模な噴火の可能性は低くなったと考えられます。しかし、湯釜火口及び水釜火口周辺の熱活動の高まった状態は継続しており、今後も活動の推移に注意する必要があります。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）発表中

湯釜火口から概ね 500m の範囲に影響を及ぼすごく小規模な火山灰等の噴出の可能性がありますので注意してください。

阿蘇山

GNSS 連続観測で観測されていた草千里深部にあると考えられているマグマだまりの膨張を示す基線の伸びは、2016 年 11 月中旬以降停滞しています。4 月 6 日から 26 日にかけて中岳第一火口直下の膨張を示すと考えられるわずかな傾斜変動が認められた後、4 月 27 日から 29 日にかけて孤立型微動の回数が一時的に増加し、4 月 28 日以降、火山ガス（二酸化硫黄）の 1 日あたりの放出量が、1,600~1,700 トンとやや多い状態となるなど、4 月から 5 月にかけて火山活動が一時的に高まりました。今後も火山活動が一時的にやや高まることもあり、火口内では土砂や火山灰が噴出する可能性があります。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）発表中

火口周辺では火山ガスに注意してください。

各地方の主な活火山の火山活動評価

1. 北海道地方

① アトサヌプリ

- 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）発表中

② 雌阿寒岳

- ポンマチネシリでは、火口直下浅部の火山性地震は少なく、噴煙活動も低調に経過しています。中マチネシリ火口付近及び東山腹の地震は、2016 年 12 月頃からやや増えています。今後の火山活動の推移に注意が必要です。
- 一方で、GNSS 連続観測では、2016 年 10 月下旬からみられている山体から東方にかけて伸びの変化が継続しており、干渉 SAR による解析では、この変化に対応する変動源は雌阿寒岳北東側に推定されます。
- 雌阿寒岳南方の徹別岳周辺、阿寒湖北側では、最近数年の間にまとまった地震活動がみられています。
- なお、雄阿寒岳では、2016 年 11 月から 2017 年 1 月頃にかけて、浅い地震がやや増加しました。また、干渉 SAR による解析で、2016 年 10 月から 2017 年 5 月の間に、膨張性の地殻変動がみられています。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）発表中

③ 大雪山

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

【参考】噴火予報（活火山であることに留意）
発表中

④ 十勝岳

- ・火山活動は概ね静穏に経過しています。
- ・一方、ここ数年、山体浅部の膨張、大正火口の噴煙量増加、地震増加、火山性微動の発生、発光現象及び地熱域の拡大などを確認しており、長期的にみると火山活動は高まる傾向にありますので、今後の活動の推移に注意が必要です。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）発表中

⑤ 樽前山

- ・火山活動は概ね静穏に経過しています。山頂溶岩ドーム周辺では、1999 年以降、高温の状態が続いていますので、突発的な火山ガス等の噴出の可能性があります。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）発表中

突発的な火山ガス等の噴出に注意してください。

⑥ 倶多楽

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
- ・なお、4 月 27 日に大正地獄で小規模な熱湯噴出が発生しました。この現象は、2007 年～2011 年及び 2016 年 11 月～12 月にも間欠的に発生していますが、局所的な現象であるため、火山活動の活発化に直接つながるものではないと考えられます。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）発表中

⑦ 有珠山

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）発表中

⑧ 北海道駒ヶ岳

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）発表中

⑨ 恵山

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）発表中

2. 東北地方

① 岩木山

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）発表中

② 八甲田山

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

【参考】噴火予報（活火山であることに留意）
発表中

③ 十和田

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

【参考】噴火予報（活火山であることに留意）
発表中

④ 秋田焼山

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）発表中

⑤ 岩手山

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）発表中

⑥ 秋田駒ヶ岳

- ・女岳では、2009 年以降拡大傾向にあった地熱域は、2016 年 7 月以降大きな変化は認められていません。
- ・5 月 28 日に地震回数が一時的に増加しましたが、地震活動は概ね低調で、地殻変動及び噴気活動に変化はみられません。
- ・女岳では地熱活動が続いていますので、今後の火山活動の推移に注意が必要です。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）発表中

⑦ 烏海山

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

【参考】噴火予報（活火山であることに留意）発表中

⑧ 栗駒山

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

【参考】噴火予報（活火山であることに留意）発表中

⑨ 蔵王山

- ・2017年4月1日と3日に火山性微動が各1回発生しました。これらの微動発生に先行してわずかな傾斜変化がみられました。
- ・坊平観測点の傾斜計では、2017年3月26日から4月6日頃まで山頂の南側上がりを示すわずかな変化がみられました。その後、山頂の南側下がりに転じ、4月下旬以降は特段の変化は認められていません。
- ・2013年から2015年にかけて火山活動の高まりがみられました。その後も火山性地震や火山性微動が時々発生していますので、今後の火山活動の推移に注意が必要です。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）発表中

⑩ 吾妻山

- ・火山活動に特段の変化はありませんでした。
- ・大穴火口付近では熱活動が継続していますので、今後の火山活動の推移に注意が必要です。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）発表中

⑪ 安達太良山

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）発表中

⑫ 磐梯山

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）発表中

3. 関東・中部地方、伊豆・小笠原諸島

① 那須岳

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過し

ており、噴火の兆候は認められません。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）発表中

② 男体山

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

③ 日光白根山

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）発表中

④ 草津白根山

- ・2014年3月以降地震活動が活発化しましたが、2015年半ば以降は静穏な状態が続いています。
- ・2014年3月頃から湯釜火口直下浅部の膨張を示す地殻変動がみられていましたが、2016年半ば以降、収縮に転じています。
- ・2014年5月以降、火山活動の活発化を示していた北側噴気地帯の硫化水素ガス成分は、活発化以前の状態に戻りつつあります。
- ・高温の火山ガスに由来する湯釜湖水の成分は2017年に入って低下傾向に転じ、その傾向が続いています。また、湯釜湖水の温度も2014年3月頃の活発化以前の状態に戻りつつあります。
- ・全磁力観測では、2014年5月頃からみられていた湯釜近傍地下の温度上昇を示唆する変化は、2016年夏頃から温度下降を示す変化に転じています。
- ・火山活動には静穏化の傾向がみられています。しかし、湯釜火口の北から北東内壁及び水釜火口の北から北東側にかけての斜面では、熱活動の活発な状態が継続しています。また、2015年9月以降、北側噴気地帯で噴気活動が活発になっており、今後も活動の推移に注意する必要があります。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）発表中

←平成29年6月7日に噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）から1（活火山であることに留意）に引下げ湯釜火口から概ね500mの範囲に影響を及ぼすごく小規模な火山灰等の噴出の可能性があるので注意してください。また、ところどころで火山ガスの噴出がみられ、周辺の窪地や谷などでは滞留した火山ガスが高濃度になることがありますので、注意してください。

⑤ 浅間山

- GNSS 連続観測では、浅間山を南北に挟む基線で 2016 年秋頃からみられていた小さな伸びはほぼ停止しています。一方、傾斜計では、2016 年 12 月頃から浅間山の西側での膨張を示すと考えられる地殻変動が観測されています。
- 火山性地震は概ねやや多い状態で経過しています。発生している地震はその多くが BL 型地震です。
- 火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、2016 年 11 月頃から増加し、2017 年 1 月 18 日に 3,600 トンになるなど多い状態が継続しています。また、2016 年 12 月以降の夜間に高感度の監視カメラで確認できる程度の弱い火映を時々観測しています。
- 今後も小規模な噴火が発生する可能性があります。

【参考】火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）発表中

山頂火口から概ね 2 km の範囲では弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。登山者等は危険な地域には立ち入らないよう地元自治体等の指示に従ってください。風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るため注意してください。

⑥ 新潟焼山

- 2015 年夏頃から山頂部東側斜面の噴煙がやや高く上がる傾向が認められ、12 月下旬からは噴煙量も多くなりました。2016 年秋から噴煙高度は低下していますが、2015 年夏以前と比べてやや高い状態が続いています。また、一部の噴気孔周辺で引き続き高温領域が認められています。
- 2016 年 5 月 1 日以降、振幅の小さな火山性地震がやや増加し、5 月 4 日以降は低周波地震も時々発生しましたが、その後、火山性地震は減少していますが、静穏だった 2014 年夏以前と比べてやや多い状態が続いています。
- GNSS による地殻変動観測では、2016 年 1 月頃から新潟焼山を南北に挟む基線で伸びがみられていましたが、2016 年夏以降は停滞傾向が認められます。
- 火山活動は 2015 年以前の静穏な状態に戻っておらず、今後も想定火口内（山頂から半径 1 km 以内）に影響を及ぼす程度のごく小規模な噴火が発生する可能性があります。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）発表中

今後の火山活動の推移に注意してください

い。山頂から半径 1 km 以内（想定火口内）は、2016 年 3 月 2 日から、地元自治体等により立入規制が実施されています。登山者等は地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

⑦ 弥陀ヶ原

- 弥陀ヶ原近傍の地震活動は静穏な状態が続いています。
- 立山地獄谷では 2012 年 6 月以降、噴気の拡大や噴気温度の上昇など熱活動の活発化がみられており、今後の火山活動の推移には注意する必要があります。

【参考】噴火予報（活火山であることに留意）発表中

今後の火山活動の推移に注意してください。また、立山地獄谷付近では火山ガスに注意してください。

⑧ 焼岳

- 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）発表中

⑨ 乗鞍岳

- 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

【参考】噴火予報（活火山であることに留意）発表中

⑩ 御嶽山

- 2014 年噴火後は、噴火の発生はありません。
- 2014 年 9 月 27 日に噴火が発生した剣ヶ峰山頂の南西側の火口列からの噴煙活動は、継続していますが、長期的には低下しています。
- 山頂付近直下の火山性地震の発生回数は、2015 年中頃から 1 ヶ月あたり 50~90 回前後であったのが、2017 年 4 月及び 5 月は 1 ヶ月あたり 30 回程度と徐々に低下しています。
- 地殻変動観測では、2014 年 10 月以降地下浅部が変動源とみられる山体の収縮が継続しています。
- 以上のように、火口列からの噴煙活動や山頂直下付近の地震活動は、その後もゆっくりと低下が続いており、現在の火山活動には静穏化の傾向がみられることから、噴火が発生する可能性は低くなっています。

【参考】火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）発表中

火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴

う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石に注意してください。

⑪ 白山

- ・火山活動は概ね静穏に経過しています。
- ・3月17日、4月20日に山頂付近の深さ3～4kmを震源とする火山性地震が一時的に増加しましたが、低周波地震や火山性微動は観測されず、新たな噴気等もみられませんでした。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）発表中

⑫ 富士山

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）発表中

⑬ 箱根山

- ・地震活動は低調で、顕著な地殻変動は観測されていません。
- ・2015年以降、大涌谷周辺の想定火口域では活発な噴気活動がみられており、土砂の噴出を伴うようなごく小規模な火山ガス等の噴出現象が発生する可能性があります。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）発表中

大涌谷周辺の想定火口域では、噴気や火山ガスに引き続き注意してください。

⑭ 伊豆東部火山群

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）発表中

⑮ 伊豆大島

- ・地殻変動観測によると、長期にわたって、地下深部へのマグマ供給によると考えられる島全体の膨張傾向が継続しており、長期的には火山活動は徐々に高まっています。
- ・また、約1年周期で膨張と収縮を示す地殻変動がみられ、膨張に伴い地震活動が活発化しており、2016年11月頃からの伸びに伴う地震活動が続いています。
- ・三原山山頂火口内及びその周辺の噴気活動は低調に経過しており、ただちに噴火の兆候は認められませんが、長期的には山体の膨張が

継続していることから、今後の火山活動に注意してください。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）発表中

⑯ 新島

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

【参考】噴火予報（活火山であることに留意）発表中

⑰ 神津島

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

【参考】噴火予報（活火山であることに留意）発表中

⑱ 三宅島

- ・GNSS連続観測では、2017年1月頃から山体深部の膨張を示す地殻変動は停滞しています。
- ・火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、長期的には緩やかな減少傾向にあり、最近は1日あたり数十トン以下と少ない状態が続いていますが、2016年5月には、火山性微動とそれに伴う傾斜変動、一時的な火山ガスの増加がみられており、今後も同様の火山ガス等の噴出現象が発生する可能性があります。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）発表中

山頂火口及び火口内南側の主火孔から500m以内では火山灰噴出に引き続き警戒してください。

⑲ 八丈島

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

【参考】噴火予報（活火山であることに留意）発表中

⑳ 青ヶ島

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

【参考】噴火予報（活火山であることに留意）発表中

㉑ ベヨネース列岩

- ・今年3月下旬以降、明神礁付近で変色水が時々観測されています。
- ・火山活動はやや活発な状態が続いており、今

後、小規模な海底噴火が発生する可能性があります。

【参考】噴火警報（周辺海域警戒）発表中

←平成 29 年 3 月 24 日に噴火予報（活火山であることに留意）から噴火警報（周辺海域警戒）に引上げ

明神礁付近及び周辺海域では海底噴火に警戒してください。また、周辺海域では海底噴火による浮遊物（軽石等）に注意してください。

② 西之島

- ・ 4 月 20 日に実施した上空からの観測で、噴火の再開が確認され、島の中央部やや南に位置する火砕丘から大きな噴石の飛散と、北山腹から溶岩の流出が確認されました。
- ・ 西之島に設置した地震計及び空振計の記録には、4 月 18 日 07 時 37 分と 18 日 08 時 00 分に空振を伴う地震と、その後断続的に発生する火山性微動がみられました。また、気象衛星ひまわりの観測によると、19 日夜から、西之島付近で周囲に比べて地表面温度の高い領域を確認しています。これらのことから、18 日に噴火が発生し、19 日には溶岩の流出が顕著になったと推定されます。
- ・ その後も、火砕丘北山腹及び北麓からの溶岩の流出は続き、5 月 2 日の上空からの観測では、溶岩は島の西岸及び南西岸から海に流れ込み、それにより、島の面積は 2016 年 9 月 15 日の 2.68km² から 2.75km² に拡大していることが確認されました。
- ・ 5 月 26 日に実施した現地調査では、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は 1 日あたり 500 トンで、前回の噴火活動中の 2015 年 10 月に実施した観測値と同程度でした。
- ・ 溶岩が流出し始めたと推定される 4 月 18 日 08 時頃から 4 月 21 日までのおよそ 3 日間の平均噴出率は約 10 万 m³/day でしたが、4 月 21 日から 4 月 25 日までの平均噴出率は約 19 万 m³/day とやや増加していました。この値は 2013～2015 年噴火時の平均噴出率と同程度です。
- ・ SAR による解析では、島の西側と南西側において、海岸線の拡大が検出されました。島の面積の拡大率は 2014～2015 年噴火時と同程度です。
- ・ 以上のように、今回の噴火は、2013～2015 年の噴火活動と同様に島の中央部やや南に位置する火砕丘とその周辺で発生しており、また噴火様式や噴出率も 2013～2015 年の噴火活動と同様と考えられます。今後も噴火活動が続く可能性があります。

【参考】火口周辺警報（入山危険）発表中

←平成 29 年 4 月 20 日に噴火予報（活火山であることに

留意）から火口周辺警報（入山危険）に引上げ

火口から概ね 1.5km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

③ 硫黄島

- ・ GNSS 連続観測では、2014 年 2 月下旬頃から隆起・停滞を繰り返しており、2016 年 9 月頃から隆起傾向がやや加速しています。
- ・ 火山性地震は増減を繰り返しながらもやや多い状態が続いています。
- ・ 島西部の阿蘇台陥没孔や井戸ヶ浜では引き続き噴気を観測しています。
- ・ 今後も小規模な噴火が発生する可能性があります。

【参考】火口周辺警報（火口周辺危険）発表中

従来から小規模な噴火が発生した地点およびその周辺では警戒してください。

④ 福岡ノ場

- ・ 長期間にわたり変色水が確認されており、今後も小規模な海底噴火が発生すると予想されます。

【参考】噴火警報（周辺海域警戒）発表中

周辺海域では海底噴火に警戒してください。また、周辺海域では海底噴火による浮遊物（軽石等）に注意してください。

4. 九州地方・南西諸島

① 鶴見岳・伽藍岳

- ・ 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）発表中

② 九重山

- ・ GNSS 連続観測によると、2012 年頃から認められていた一部の基線の伸びの傾向は、2016 年 1 月頃から鈍化しています。
- ・ その他の観測データには特段の変化はありませんが、今後の火山活動の推移に注意が必要です。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）発表中

③ 阿蘇山

- ・ 中岳第一火口では、2016 年 10 月 8 日に爆発的噴火が発生した後、噴火は発生していません。
- ・ GNSS 連続観測で観測されていた草千里深部に

あると考えられているマグマだまりの膨張を示す基線の伸びは、2016 年 11 月中旬以降停滞しています。

- ・ 4 月 6 日から 26 日までに傾斜計では、中岳第一火口直下の膨張を示すと考えられるわずかな変動が認められました。
- ・ 4 月 27 日から 5 月 8 日まで、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量や孤立型微動の回数等が増加するなど一時的に火山活動がやや高まった状態で経過しました。
- ・ 火山ガス（二酸化硫黄）の 1 日あたりの放出量は、4 月 19 日までは 500～1,400 トン程度と概ねやや少ない状態で経過しましたが、4 月 28 日以降は、火山ガス（二酸化硫黄）の 1 日あたりの放出量が、1,600 トン～1,700 とやや多い状態で経過し、5 月 8 日以降は、700 トン～1,700 トンと増減を繰り返しながらやや多い状態で経過しました。
- ・ 火山性微動の振幅は、2016 年 10 月 9 日以降は 3 月に時々やや大きな状態となりましたが概ね小さな状態で経過しました。
- ・ 孤立型微動は、4 月 27 日から 29 日にかけて回数が増加しましたが、5 月 2 日以降は少なくなりました。
- ・ 中岳第一火口内に緑色の湯だまりを確認し、湯だまり量は中岳第一火口底の 10 割でした。土砂噴出は観測されていません。
- ・ 期間中、夜間に高感度の監視カメラで火映を時々観測しました。中岳第一火口内の火口壁の一部が赤熱し火映が発生しているものと推定されます。
- ・ 今後も火山活動が一時的にやや高まることがあり、火口内では土砂や火山灰の噴出する可能性があります。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）発表中

火口周辺では火山ガスに注意してください。なお、これまでの噴火による火山灰などの堆積等により道路や登山道等が危険な状態となっている可能性があるため、引き続き地元地方公共団体等が行う立入規制に従ってください。

④ 雲仙岳

- ・ 火山活動は概ね静穏に経過しています。長期的には 2010 年頃から火山性地震の活動がやや活発となっていますので、今後の火山活動の推移に注意が必要です。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）発表中

⑤ 霧島山

えびの高原（硫黄山）周辺

- ・ 硫黄山火口周辺では、2015 年 12 月から熱異常域の拡大や噴気の量の増加がみられています。2017 年 2 月以降は、硫黄山の南西から西側でもみられるようになりました。
- ・ 2017 年 4 月 25 日 11 時頃から硫黄山南西観測点の傾斜計で、硫黄山方向が隆起する傾斜変動が繰り返され、6 月 20 日現在も継続しています。その他の傾斜計には特段の変化は認められていません。これは、この傾斜変化が硫黄山の地下の局所的な変動によって生じているためと考えられます。
- ・ 干渉 SAR による解析では、硫黄山の南西部で衛星に近づく変動がみられ、その他の地域では明瞭な変動は認められませんでした。
- ・ GNSS 連続観測では、火山活動によると考えられる特段の変化は認められません。
- ・ 5 月 8～9 日に行った精密水準測量では、3 月から 5 月にかけて硫黄山北東部を中心に沈降傾向がみられ、深さ 700m に推定される圧力源は収縮傾向でした。また、硫黄山西麓の噴気が活発になった地域では、3 月に沈降がみられていましたが、5 月には反転して局所的な隆起がみられています。
- ・ 4 月 27 日から 28 日にかけては噴気の高さが一時的に稜線上 200m まで上がりました。
- ・ 5 月 8 日に実施した現地調査により、硫黄山火口内の噴気孔から西側に約 200m 程度の範囲で、火山灰が堆積しているのが確認されました。この現象は、地表下のごく浅い所にある熱水溜まりの圧力が高まり、地表を破砕し生じた土砂噴出と考えられます。
- ・ 5 月 15 日及び 16 日に実施した現地調査では、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量が両日とも 1 日あたり 10 トンと、2015 年 12 月以降の活動で初めて観測されました。
- ・ 硫黄山西麓の湧水の Cl と SO_4 のモル比が 1 月 17 日から 4 月 27 日にかけて 0.16 から 0.50 に増加しました。これは、地下浅部への高温の火山ガスの供給量の増加によると考えられます。また、5 月 15 日には硫黄山噴気域近傍の湧水で、高温の火山ガスの寄与が大きいと考えられる Cl/SO_4 モル比が 11 と高い値が認められています。
- ・ 火山性地震は、少ない状態で経過しましたが、4 月下旬には、4 月 25 日 11 時頃からの傾斜変動に先立ちわずかに増加しました。火山性微動は、観測されていません。
- ・ 硫黄山火口の噴気活動の拡大は過去に活動がみられていた領域に限定されていますが、ごく浅いところで繰り返しわずかな膨張がみられており、火口周辺に火山灰を降らせる噴火が発生する可能性があります。

- ・今後の活動の推移に注意する必要があります。また、硫黄山周辺では高濃度の硫化水素が確認されていますので、注意してください。

【参考】火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）発表中

←平成 29 年 5 月 9 日に噴火警戒レベルを 1（活火山であることに留意）から 2（火口周辺規制）に引上げ
えびの高原の硫黄山から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。風下側では、降灰及び風の影響を受ける小さな噴石（火山れき）に注意してください。

新燃岳

- ・新燃岳では、2011 年 9 月 7 日を最後に噴火は発生していません。
- ・火山性地震は少ない状態で経過しました。6 月 11 日に 2016 年 9 月 17 日以来となる火山性微動を観測しました。
- ・GNSS 連続観測によると、新燃岳の北西数 km の地下深くにあると考えられるマグマだまりの膨張を示す地殻変動は、2015 年 1 月頃から停滞しています。
- ・白色の噴煙は、ほとんどが火口内で消散する程度でした。
- ・2016 年 10 月 18 日に実施した新燃岳火口縁からの現地調査では、火口内の所々から弱い噴気が上がっており、その周辺が弱い熱異常域となっていました。
- ・2015 年 11 月頃から新燃岳火口の西側斜面の割れ目の下方で、やや温度の高い部分が引き続き観測されています。
- ・活火山であることから、火口内及び西側斜面の割れ目付近では、火山灰や火山ガス等の規模の小さな噴出現象が突発的に発生する可能性があります。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）発表中

←平成 29 年 5 月 26 日に噴火警戒レベルを 2（火口周辺規制）から 1（活火山であることに留意）に引下げ
火口内及び西側斜面の割れ目付近では、突発的な噴出に伴う火山灰や火山ガス等に注意してください。なお、これまでの噴火による火山灰などの堆積等により道路や登山道等が危険な状態となっている可能性があるため、引き続き地元自治体等が行う立入規制等に留意してください。

御鉢

- ・今のところ噴火の兆候は認められませんが、時折地震の増加や火山性微動の発生がみられることから、今後の火山活動の推移に注意が必要です。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）発表中

⑥ 桜島

- ・桜島の噴火活動は、活発な状態で経過しました。
- ・南岳山頂火口では、3 月 25 日 18 時 03 分に昨年(2016 年) 6 月 3 日以来の噴火が発生し、火砕流が南側へ約 1,100m 流下しました。今期間(2017 年 1 月から 5 月 31 日)、噴火が 6 回発生しました。爆発的噴火は観測されませんでした。
- ・昭和火口では、4 月 26 日に昨年 7 月 26 日以来の噴火が発生しました。今期間、噴火は 66 回発生しました。爆発的噴火は 11 回発生し、大きな噴石が最大で 5 合目（昭和火口より 500~800m）まで達しました。噴煙の高さが火口縁上 3,000m 以上の噴火は 8 回発生し、最も高く上がったのは 5 月 2 日の 4,000m でした。昭和火口の噴火では火砕流は発生しませんでした。
- ・浅い地震（B 型地震）は少ない状態で経過しましたが、南岳山頂火口で噴火が発生する前の 3 月 19 日からやや増加し、4 月上旬頃までやや多い状況でした。やや深い地震（A 型地震）は、少ない状態で経過しました。震源は、南岳直下の海拔下 0~3 km 付近、桜島西部の海拔下 3~9 km 付近、及び桜島東部の 5 km 付近に分布しました。
- ・桜島内の傾斜計では、2015 年 8 月 15 日の急激な変動以降、顕著な山体膨張を示す変動は認められません。
- ・GNSS 連続観測では、2015 年 8 月 15 日の急激な変動以降、顕著な山体膨張を示す急激な変動は認められません。始良カルデラ地下深部へのマグマの供給を示すと考えられる地盤の膨張傾向は継続しています。
- ・1 日あたりの火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、2 月から 3 月にかけては 100~300 トンと少ない状況でしたが、4 月は 300~500 トン、5 月は 300~1,700 トンとやや増加しました。
- ・以上のように、桜島の噴火活動は、引き続き現在と同様な噴火活動が継続すると思われる。

【参考】火口周辺警報（噴火警戒レベル 3、入山規制）発表中

昭和火口及び南岳山頂火口から概ね 2 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石（火山れき）が遠方まで風に流され

て降るため注意してください。爆発的噴火に伴う大きな空振によって窓ガラスが割れるなどのおそれがあるため注意してください。また、降雨時には土石流に注意してください。

⑦ 薩摩硫黄島

- ・1月に増加した火山性地震は、1月下旬以降は徐々に減少し2月5日以降は日回数が10回未満と少ない状態になりました。火山性微動は2015年8月以降、観測されていません。
- ・1月10日、12日、2月8日に実施した現地調査による火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は昨年と同様にやや少なく、1月5日、2月21日に鹿児島県からの協力を得て実施した上空からの観測では、噴煙や山体の熱異常域の状況に、地震の増加前と比べて特段の変化は認められていません。
- ・地殻変動観測では、火山活動に伴う特段の変化は認められていません。
- ・これらのことから、1月に一時的に高まった火山活動は低下した状態が継続しています。
- ・活火山であることから、火口内では火山灰等が噴出する可能性があります。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）発表中

←平成29年2月24日に噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）から1（活火山であることに留意）に引下げ
火口内では突発的な噴出に伴う火山灰等に注意してください。また、火口付近では火山ガスに注意してください。なお、地元自治体を実施している立ち入り規制等に留意してください。

⑧ 口永良部島

- ・新岳では、2015年6月19日の噴火後、噴火は観測されていません。
- ・火山性地震は少ない状態で経過しましたが、2月には月回数で195回とやや多い状態となりました。3月以降は再び少ない状態で経過しています。2016年10月以降火山性微動は観測されていません。
- ・現地調査では、2015年9月以降、新岳火口の西側割れ目付近の熱異常域の温度の低下が認められていますが、噴煙は最高で火口縁上800mまで上がるなど、2014年8月3日の噴火前よりは多い状態が続いています。火映は2015年5月29日の噴火以降観測されていません。
- ・GNSS連続観測では、火山活動によると考えられる変化は認められません。
- ・火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、2016年5月以降、1日あたり概ね100～200トンで

経過していましたが、4月以降は200～500トンで経過しておりわずかに増加しています。

- ・2015年5月29日と同程度の噴火が発生する可能性は低いものの、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、2014年8月の噴火前よりもやや多い状態で経過していることから、引き続き新岳火口から概ね2km以内への大きな噴石の飛散、あるいは火砕流の流下を伴う噴火が発生する可能性があります。

【参考】火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）発表中

新岳火口から概ね2kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。向江浜地区から新岳の南西にかけて、火口から海岸までの範囲では火砕流に警戒してください。風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が風に流されて降るため注意してください。降雨時には土石流の可能性があるので注意してください。

⑨ 諏訪之瀬島

- ・御岳火口では、噴火が時々発生し、爆発的噴火が2月に5回、5月に2回発生するなど、活発な火山活動が継続しています。
- ・十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、3月25日に集落（御岳の南南西約4km）で降灰が確認されました。また、5月16日に肉眼で火映が確認されました。
- ・諏訪之瀬島南西近海を震源とするA型地震が4月13日に一時的に増加しました。
- ・火山性微動は、時々発生しています。
- ・諏訪之瀬島では活発な噴火活動が続いており、今後も小規模な噴火が発生する可能性があります。

【参考】火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）発表中

火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。